

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村みなこ
視察地	沖縄県那覇市		
調査事項	新真和志複合施設建設事業について		
視察年月日	2023. 11. 7		
視察内容			
○調査概要			
・「ファシリティマネジメント推進方針」のもと、老朽化した複数の公共施設を複合化・共有化する流れの中で、真和志地域の再生も兼ねて、7つの公共施設が複合する施設の建設が進められている。			
○調査結果に対する意見			
・多様な施設を一か所に集めることで、財政を縮小するだとか、住民にとっての利便性が向上するというメリットがある。しかし、逆に、デメリットとなる面もあるのではないか。今まで各施設がそれぞれの地域で親しまれ利用されていたものである。違う場所に移転するというので、不便を感じる方々もいる。それらの声を汲み取っていくか、利用しやすいように、交通面で何らかの手立てが必要である。			
・市民会館跡地に複合施設と民間の施設等ができることにより、もともとこの地域にある店舗への影響を考慮すべきだと思う。共存できるような工夫、例えば同じ性質の店舗等を避けるよう企業の選定条件を細かく設定するなど、考慮すべきである。			
・7つの施設が同じ空間を共有していくことになり、お互いの領域にそれぞれの音での影響がないよう、工夫が必要になるとの話が出されていた。相談業務、発達障害のお子さんなどが利用するにあたり、十分配慮がされるべき問題であると考え。出来上がらないとわからない面もあると思うが、遅くなると修正がきかないこともあると思われる。各団体や部署との綿密な打ち合わせをもち、なるべく早期の的確な判断が求められる。			
○本市における実施の可能性			
・本市が検討している文化施設は、地域の文化の拠点としての機能を最優先として考える大型の施設だが、新真和志の施設は、7つの施設を複合化したものであり、肝心のホールも備えてはいるが中型で、座席が固定されていないスペースについて直接参考にできる部分はなかった。			
○課題等			
・説明の中で紹介された、令和3年に開館している「なは一と」という文化芸術会館に立ち寄ったところ、予約せずに見学は不可能だったが、ロビー、小スタジオ、外回りを見ることができた。入り口が多方向から複数あること、会館裏の関係者出入りスペースの広さ、搬入口のシャッターの大きさなど、かなり余裕のあるものとなっており、機材搬入等の動線が十分に確保できている。また、国際通りのすぐ近くという立地は、利用人数向上の大きな要因である。本市の現文化会館に建設すると考えると、敷地面積や駅前からの距離が課題であることを改めて感じた。			

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村みなこ
視察地	沖縄県浦添市		
調査事項	美味しい給食推進事業について		
視察年月日	2023. 11. 8		
視察内容	<p>○調査概要</p> <ul style="list-style-type: none">・沖縄県では、2025年から第3子以降の給食費無償化、26年から完全無償化の検討が始まっている。それに先がけ、浦添市では、今年度から学校給食の物価高騰対応と給食の充実を図るため、「美味しい給食推進事業」を始めている。キッズファースト宣言の一環として、学校給食を充実させたいとの市長の強い思いも相まって、様々な取組がスタートしている。・給食費は、保護者負担を据え置き、補助金を活用して公費で上乗せし、給食の充実と安定的な供給を図っている。また、沖縄ならではの取組として、沖縄の伝統料理、海産物を中心とする地元食材の活用、歴史文化と関連させての食育の充実、中学生には美術館から借りる琉球食器を使用しての給食などを実施している。2つの共同調理場で市内全ての給食7,000食を提供している。実際に、調理場を訪問し、栄養士や調理師と交流しながら試食させていただいた。 <p>○調査結果に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・近隣に農業地帯がないという地域特性もあり、地産地消の拡大は難しいとのことだが、生産者とのつながりを重視しながら食育を進めていけるとよい。・事業の目標や成果などを設定する、数値化するなど、分析・評価できるようにすることで、より今後の改善策につながり、充実を図ることができると思う。・現在の物価高騰で大変な思いをしている家庭は多い。義務教育は無償化を定めている憲法のもと、給食費の無償化は国の政策として進めていくべきである。その実現まで、保護者への負担が少しでも軽減できるよう、給食費据え置きだけでなく、さらなる支援策を取り入れていくべきである。 <p>○本市における実施の可能性、</p> <ul style="list-style-type: none">・本市では来年度も給食費の値上げはしない方向ではあるが、無償化実現まで、値上げしない方針で継続していくべきである。・地元の生産者との交流は取り入れられており、近隣の農家さんとの交流はある。しかし、内陸のため、漁業に携わる人や仕事など、なかなか知る機会が無い中で義務教育の中で一度は、オンラインなどを利用して取り組むのも食育の幅が広がると思った。・器へのこだわりがおもしろい。旭川家具の木の器の使用は実現できるのではないだろうか。		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村みなこ
視察地	沖縄県浦添市		
調査事項	認可外保育施設の給食ケータリングについて		
視察年月日	2023. 11. 8		
視察内容	<p>○調査概要</p> <ul style="list-style-type: none">浦添市は、戦後直後米軍の統治下にあり、児童福祉法が本土より6年遅くに適用されたため、保育整備がおくれたという背景がある。また、当初より共働き家庭が多く出生率も高かったため、保育園を急いで作らなければならず、民衆の中で個人が立ち上げたため、他自治体より認可外(個人経営が7割)が多くなっている。認可と認可外の違いが大きく、保育の質の格差となって表れており、即効性のある取組としてケータリング事業がスタートした。 <p>○調査結果に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none">認可外保育園の過酷な実情と、沖縄県として歴史的背景による保育の遅れに対する即効性のある有効な取組である。 <p>○本市における実施の可能性</p> <ul style="list-style-type: none">本市の実態として、認可外保育園自体が少なく、基準を満たしていない園は6施設中1施設であるがインターナショナルスクールであるため、子どもの命を守るなどの安全面や、職員の負担軽減への緊急的な取組自体必要かどうか、保育の質の向上のためにケータリング事業が相応しいかどうかは検証が必要である。保育士の定員改善が進まない中、保育士の負担軽減策の模索は進めていく価値がある。 <p>○課題等</p> <ul style="list-style-type: none">浦添市としてとらえている課題としては、ケータリング業者の市内調達の困難性、市事業・県事業とも期限があるため、恒常的な財源確保には至らないことが挙げられている。その期限が来る前までに、保育料の引き上げなどの保育園の運営改善に取り組む必要がある。それらが、現実的に実現可能かどうかという点では、ICT化による業務効率の改善は国庫の補助があるため確実に進めていける。しかし、保育料に関連しては保護者の給与改善がなければ、この物価高騰の中の実施は難しいと考えられる。また、認可外保育園は、潜在的待機児童の受け皿となっていることから、認可保育園に通えるようにする取組を充実させていく必要がある。しかし、旭川市同様、保育士の確保が大きな課題となっており、お互いの取り組んでいる事業の交流をしたが、ほぼ同じような目的で同じような取組が行われていた。それらの拡充のための工夫と、さらなる新しい対策の模索を続けなければならない。		

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村みなこ
視察地	東京都渋谷区		
調査事項	部活動の地域移行について		
視察年月日	2023. 11. 9		
視察内容	<p>○調査概要</p> <ul style="list-style-type: none">・2021年からシブヤ部活動改革プロジェクトを実施し、その直後に設立された一般社団法人渋谷ユナイテッドに委託し、推進している。・①土日のユナイテッドクラブ、②平日の部活動地域移行(モデル事業として中学校8校中2校で実施)、③自主事業の3つの事業を展開している。・子どもたちのニーズに応え、勝利至上主義ではなく各活動の楽しさや喜びを味わう経験を重視し、生涯取り組める活動につなげていくことをコンセプトとしている。・教員、保護者からも概ね好評で、今のところ大きな問題点なく進められている。・渋谷区ならではの資源を生かしての事業となっている。・このプロジェクトによって、参加生徒数の増加、教員の負担軽減など、すでに成果として現れ、受け入れられつつある事業である。スタートしたばかりであり、新たな課題についての対策やより拡充するための検討をしながら進めている。 <p>○本市における実施の可能性</p> <ul style="list-style-type: none">・渋谷ユナイテッドは多種類の内容、専門性の高い人材の確保、実施場所などの環境など恵まれていることで実現できている。本市ではそれらの資源が乏しい現状であるため、実施は難しいと考える。しかし、平日の部活動において、実技指導の外部人材だけではなく、部活動顧問としての事務的な業務を担うスーパーバイザー、クラブマネージャーの配置は取り入れることができる。これは、働き方改革において効果的であり、本市でも取り入れていきたい要素である。・土日のユナイテッドクラブでは、既存の部活動の費用を超えない会費の設定をしており、無理のない保護者負担を考慮しての会費設定は受け入れられやすい。しかし、土日の部活については、前述のとおり課題がある。・競技人口を増やしたいと考えている団体や企業にとって、関心のある取組であることから、広報に力を入れることで、この事業に関わりたいと考える企業・団体の協力を得て進められる可能性はある。 <p>○課題等</p> <ul style="list-style-type: none">・誰もが希望する活動ができるよう、公平に機会が保障されることを目指している。費用面での公平性という点では、保護者負担への補助があるなどほぼ実現できているが、通部するための移動面では課題となっている。また、活動の種類選択では、スポーツ系が多いなどの偏りがみられるなど、多くのニーズに合わせられるように整備していくことも課題である。・本市で取り組むにあたり、人材や財源の確保が大きなハードルとなるが、子どもたちの意見を取り入れる手立ては必要である。		

(様式)

・学習指導要領に位置付けられた活動ということで、子どもたちへの支援、評価等、学校と外部の指導者との連携が不可欠となる。各指導者と学校の先生方と、ネット上でクラブマネージャーも関わりながら、逐一情報交換がなされているとのことだが、文字だけではリアルでタイムリーな生徒の実態をつかめるものになっているのか疑問である。的確な情報交換となっているのか、その情報が双方に有効的に活用されているのか等、分析しながら改善を図る必要があると思う。